こころ便り

第266号

令和4年5月

〒679-4343
兵庫県たつの市新宮町大屋六六八-十二
株式会社 新宮運送グループ
代表／木南 一志
kiminami@shingu.co.jp
電話 0791・75・1212

新宮運送ホームページ

米を食う

山は緑に染まり爽やかな風が吹きはじめて、暦は夏も近づく八十八夜となりました。人間社会ではコロナ禍は落ち着き始めたものの、争いは収まらず何が起きても不思議ではない様相が当分続いていきそうです。こんなときほど不安になり過ぎず、心の安定をしっかりと意識したいものです。

中村天風師の言葉に「人生は心ひとつの置きどころ」とあります。捉え方ひとつで負担となる重荷になったり、自分を励ましていく起爆剤になったりするのは物事の捉え方なのです。

天風会の大先輩である循環器系のドクターからの新聞に、主食である米をしっかり食べようという主旨のお話がありました。主食は身体を動かすためのエネルギー、車で言えば燃料となるもの。しっかり体を動かして燃やすことで有害物質を出さない。それはどういうことかというと、でんぷん質のコメは炭素と水素と酸素からできていて炭素は酸素と化合して炭酸ガスとなって肺から排出される。水素は燃えると水となって汗や尿となって排出されるのです。

コメは太るから食べないという人の話をよく耳にします。果たして本当にそうなのか、しっかりと検証しながら健康維持をしていきたいものです。

ウクライナやロシア産の小麦が輸入されなくなって供給量が減ると値段も高くなっていきます。国内産の米は値段が上がらずに、農業の採算は決していいとは言えません。自分たちの国に食べられるものがたくさんありながら、それを食することなく他国産の食料をあてにするというのはどうなのだろうと考えてしまいます。寿司ネタも直送のノルウェー産が空路を迂回して時間がかかり、ロシア近海の産物が採れなくなって、値段も上がり始めています。

便利だ、おいしい、安いと思っていたのは、その陰で泣いてきた生産者や物流業者の犠牲の上で成り立っていたともいえるのではないかと思います。

今、私たちは原点に立ち戻り、お互いを活かすことで支えあえる社会を再点検しなくてはならないと強く感じます。昔ながらの方法ではできない無理をハッキリと問題と捉えて改善していかねばなりません。

私たち日本国民がしっかり検証して一食でも多く米を食べるという行動を起こすことで小麦の市場を安定化させることにもつながるのではないでしょうか。

遠回りに見えても、できることは必ずある。そう信じて考えてみませんか。

被災地にこころを寄せながら

木南 一志 拝

尋常小學修身書 巻六 兒童用

第二十三課 師弟

忠敬の先生の至時は幕府の天文方でした。四十歳の時オランダの新しい暦法の書物を得たので、僅か半年の間に、不十分な語學の力でそれを讀終つた上に、その書物について著述までもしました。もとから病身であつた至時は、このはげしい勉强のために大そう健康を損じて、翌年なくなりました。

至時は忠敬の根氣のよいのに感心し、特に力を入れて教へ、又後には北海道その他の測量を忠敬にさせるやうに幕府にとりなしました。さうして新しい知識を得ると、すぐ忠敬にそれを傳へ、忠敬はすぐまたそれを實地に應用して、師弟一體になつて學問のために力を盡しました。至時の死んだ時には、忠敬は非常に力を落しましたが、先生の教を空しくしてはならぬと思ひ、その後は一層骨折つて、とうとう日本全國測量の大事業を成しとげました。

忠敬は七十四歳でなくなりましたが、死ぬ時に「自分にこれだけの事が出來たのは全く高橋先生のおかげであるから、自分が死んだ後は先生の側に葬つてもらひたい。」と家族の者にいひのこしました。今でも淺草の源空寺には、この師弟の墓が並んで立つてゐます。

NPO法人 愛ランド様の協力で障害を持つ皆さんが宛名貼り、封入作業をしてお届けさせていただいております。